



都議会議員 岩永やす代

にじいろレポート

2024/10 No.14



編集・発行/加瀬よりえ
発行日/2024年10月31日
TEL042-328-1885 FAX042-328-1878
email kita2@seikatsusha.net
〒185-0024 国分寺市泉町 3-33-16-103

<https://iwanaga.seikatsusha.me/>

子どもの権利の視点に立った 保育の質の向上を！

2022年に国分寺市内の認可外保育施設で給食中の誤嚥による死亡事故が発生しました。事故が起こる前、保育施設への都の立入調査や巡回指導では一度も指摘がありませんでしたが、事故後の立入調査報告からは、事故前に2件の誤嚥事例があったことが指摘されています。過去の反省や検証が全くなされなままに3度目の誤嚥事故が発生し、幼い命が失われてしまいました。未然に防ぐことができなかったのか、大変悔やまれます。

増える保育現場での事故

待機児童問題への取り組みを加速し進める中、都内でも短期間に次々と保育施設ができ、この10年間で認可・認証保育施設あわせて10万人以上の定員が増えました。しかしその一方で、誤嚥事故やうつぶせ寝による窒息死、散歩中の置き去りなど、保育現場での子どもの事故が後を絶たず、保育の質をどのようにも向上していくのが問われています。

日々子どもと向き合う保育士は、継続的にスキルを積み重ねていくことが重要ですが、保育現場を離れることができません。特に認可保育所に比べて認可外保育施設には非常勤職員の割合が多く、難しい状況です。そのような課題を解決するために、オンライン研修の実施や、今年度からは認可外保育施設の職員が研修に参加する際に代替人員を配

置する都の補助金額が拡充されました。今後の活用状況を注視していきます。

子どもにやさしいまちづくりをみんなので

保育施設は子どもが毎日過ごす生活の場です。安全が担保されて初めて安心が生まれ、子どもたちは日々さまざまなことにチャレンジできるようになります。子どもの育ちは保育の質に大きく関わります。子どもの権利に基づき、子育て・子育てを応援する保育施設でなければなりません。

保育士不足への対応はもろろのこと、配置基準の見直しや研修の充実が急務です。あわせて、園庭を持たない保育施設が代替園庭として利用する公園が混みありに使えない状況もあり、子どもたちがお散歩しながら遊べる場所の確保も課題です。公園や公共施設など、他部署との連携が必要です。東京都子ども基本条例を活かし、保育施策を含めてまちづくりを子どもの権利の視点で考えることが大切です。

子育て支援の地域ネットワークを広げる

今後、少子化が進むにつれ保育施設が減少します。地域の認可外保育施設を含めて子育て支援機関が孤立しないよう連携し、互いに高めあえる環境が必要です。国分寺市では行政と子育て支援団体、市民が協働して「円卓会議」を開催し、地域の子育て支援に関する情報共有や連携を行っています。このような地域のネットワークを中心に、日頃から自治体が子どもの権利に基づいて協議したり相談できる体制を後押しするよう都に求めていきます。

※子どもにやさしいまちづくり事業
子どもの権利条約を市区町村レベルで具体化する世界的な活動であり、子どもとの距離が最も近い行政単位である市区町村が実践する事業。その特徴は、当該市町村の人々がみんなで見んなの「まち」をつくっていくこと、とりわけ子どももまちづくりの主体、当事者として位置づけていることです。子どもにやさしいまちでは、子ども達がまちの活動に活発に参加し、彼らの声や意見が考慮され、まちの決定や手続き等に反映されるということが大切にされています。

水みち

食と農のモヤモヤ、晴れるか？

RS (国分寺市民)

米がスーパーの棚から消えて大騒ぎになっていた8月の初旬、神奈川県海老名市の田んぼに米軍ヘリが「不時着」しました。

危険な低空飛行訓練を繰り返して、何十年にもわたりPFAS汚染を広げてきた米軍が、今度は田んぼをヘリポートに。心底怒りがわいてきます。

しかし報道にも引っかけかりを覚えました。「けが人や周辺の建物への被害はなかった」で終わっていたからです。いや、あの、農業被害は？

どうも私たちも、田んぼや畑を「何も無い場所」と同義のように言う癖がついてしまっていないか？スーパーで米や野菜を手に取り、味や値段のことは語っても、それを育てる農家の仕事や暮らしをどれだけ気にしたのだろうか？

またふと気づけば、うちの生活圏に6カ所あった畑が、この2年ですべてなくなってしまうました。何が起きたのか？これでもいいのだろうか？

そんなおり、「百姓の百の声」という映画の上映会が生活者ネットワークの主催で、来年の2月8日(土)に開かれると聞きました。これ、もしかして、

食や農のモヤモヤを考えるのにぴったりの内容なので……？



一昨年通りすぎりで見かけた国分寺市西町のキャベツ畑。現在はどうなっているのだろうか。



多くの豊かな湧水を集めて流れていると思えない、国分寺市内の野川。護岸がコンクリートの3面貼りでなんとも味気ない。

都政をつなぐ

「多自然型川づくり」のもと早期に「野川」の親水型整備を!

国分寺市議会議員 小坂まさ代

国分寺市の日立製作所中央研究所敷地内の大池を源泉とする野川は、国分寺崖線の湧水を集めながら、小金井市、三鷹市、調布市、狛江市を経て、世田谷区二子玉川付近で多摩川に合流する一級河川です。国分寺市内はコンクリート三面張

りですが、鞍尾根橋から小金井市に入ると、景色は一変。川幅は20メートル以上となり、まぶしい緑と様々な生き物が見られる自然豊かな風景が広がります。

国分寺市では『緑の基本計画』において、野川の治水機能の向上や生物多様性の確保、親水空間化に向けた整備を東京都に要望。2015年からは野川整備の促進とまちづくりに関する市民の意見を聞く機会として「まちづくりと野川に関する懇談会」を開催しています。

市民の声が高まり、3年前都議会に1万4000筆以上の署名とともに野川上流部護岸整備の早期実施を求める陳情を提出。趣旨採択されましたが実現の目途はたつていません。その後

「野川最上流部の整備計画を1000日で実現する会」が結成され、市民活動は現在も続いています。国土交通省では、2006年に「多自然川づくり」の基本指針を作成。自然などに配慮した川づくりを行うことよって良好な川の環境を取り戻し、人と川との

関係を作りなおす「多自然川づくり」に取り組んでいます。川づくりを治水という観点にとどまることなく、河川が本来有している生物の生息や繁殖環境、及び多様な河川景観を保全し創出しようとするこの指針は、全ての川づくりの基本として全国に展開され、

様々な取組みが拡大しています。環境保全やグリーンインフラの視点からも大切な川づくり。国、都、市がしっかりと連携した早期の野川の整備をこれからも求めていきます。

都政をつなぐ

「ICT教育の課題と目指すものは」

国立市議会議員

なかたにあやこ

GIGAスクール構想が提唱されてから5年。一人1台端末の貸与も整備が進みました。ICT（情報通信技術）の活用には大きな可能性があり、授業・学習における効果が様々な取り組みを通じて確認されています。しかし一方で、子どもたちを取り巻くICT教育は地域ごと、学校ごとに格差が生じているのが現状です。

文科省ではICT環境整



文科省ホームページ「新学習指導要領に則した学びを実現するためにICT支援員の配置を」平成30年3月より

備のために多岐に渡る目標を立てていますが、それを達成するには多くの課題があります。効果的な導入を進めるためには、ICT教育導入目的を明確に持ち、先進事例を研究し、専門家からの支援や制度の活用、外部人材の活用が必要で

変革していくことが求められます。授業はもちろん、授業以外の時間でも、子どもたちが主体的に「思考のツール」として活用していくことは、これからの学びにおいて重要なことです。共同学習の場で、他者とコミュニケーションをとるツールとして、大いに一人1台端末を活用すること。ICT支援員を十分に配置し、教員との連携を積極的に行うこと。子どもを含めたICT教育についての会議体を持つこと、電

磁波過敏症の児童・生徒への対応などを、なかたにあやこは一般質問で提案しました。ネクストGIGAに向けて、子どもたちを取り巻くICT教育を充実していくことが、早急に求められています。

8月、長崎市の平和祈念式典にて

核なき世界にむけて～被団協ノーベル平和賞受賞

●長崎を最後の被爆地に！今こそ日本から核廃絶を

10月12日、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が、ノーベル平和賞を受賞しました。

被爆による健康被害や差別・偏見を受けながらも被爆体験を語り継ぎ、核廃絶にむけて世界に発信し行動し続けてこられた長年の活動が実を結び、嬉しく思います。

来年は広島・長崎に原爆が投下されてから80年。被爆者が高齢化しています。20歳の時に長崎で被爆した義母が、今月はじめに99歳で天国に旅立ちました。被爆体験の記憶と記録を語り継ぐ証言集に、義母の手記も記されており、この受賞を知ったらどんなに喜ぶことでしょう。

世界ではパレスチナガザ地区での紛争や、ウクライナの戦争も長引く中で、核の脅威はますます高まっています。唯一の戦争被爆国として、日本政府は核なき世界にむけて一日も早く核禁止条約へ署名・批准をし、核廃絶を訴えるべきです。来年3月に開催される、核兵器禁止条約第3回締約国会への日本政府の参加を求め、引き続き声をあげていきます。



8月、長崎市の平和祈念式典にて

にじいろ Photo diary



岩永やす代の都政フォーラム(8/30) 大沢真理さん(東京大学名誉教授)からいまだに昭和時代のままで政治が機能していない日本の現状をきく。



気候アクション@都庁舎前(9/20) 都庁都民広場で設置工事が始まったプラスチックの人工芝問題について都議会生活者ネットワークは都民広場への人工芝の設置の中止を求めた。



衆議院議員選挙(10/27)。東京選挙区(19区)では末松義規さんを応援。激戦の中勝ち抜き当選した。

2024年都議会第4回定例会日程(予定)

- 11/26 告示日
- 11/27 公営企業委員会
- 12/3 開会(本会議)
- 12/10 代表質問
- 12/11 一般質問
- 12/13 公営企業委員会
- 12/18 閉会(本会議)

岩永やす代 登壇

インターネット配信はこちら



傍聴席はこちらから



※本会議、委員会のいずれも13時より開会です。